

【1】徳島県立徳島科学技術高等学校国語科 岡本 と申します。

本日は、本校の進路指導とのつながりを考えた「書く」ことの指導の実践について、国語科の取り組みを報告させていただきます。

【2】

・本校は、2009年、徳島工業・徳島東工業・水産高校の3校が発展的に統合され、「徳島科学技術高等学校」として開校された専門高校です。

・全校生徒数850名程度、全県一区で50以上の中学校から進学してきています。

・部活動も盛んで、ほとんどの生徒がいずれかの部・同好会に所属して熱心に活動しており、四国大会・全国大会に出場する部も多くあります。

【3】

・全日制課程は工業科・水産科6類11コースから成り、1年は「類」、2年からより専門的な知識・技術の習得を目指し、「コース」に分かれます。

・1・2・10組の科学系は進学希望の生徒がメイン、3～9、11組の技術系は就職希望の生徒がメインですが、近年では大学・専門学校への進学も増えてきています。

・今年度、各学年の国語の単位数は、1年→「現代の国語」2単位・「言語文化」2単位、2年、3年→「論理国語」各2単位となっており、少ない単位数の中で大学進学に向けての学習をどのように支援していくかが、大きな課題となっています。

【4】昨年度の進路状況は、進学・就職がほぼ半々になっており、国公立大学への合格者は、42名でした。

【5】ほとんどの生徒が総合型入試と学校推薦型入試で合格しており、自分の活動してきたことについて「まとめ」たり、様々な分野の内容を「思考し」て「論述する」という力が求められています。

【6】

・進学対応のコースでは、補習や模試の受験等、大学受験に向けてのサポート体制を整え、進路実現に向けて様々な学習に取り組めるよう支援しています。

・また、就職志望の生徒には、作文の書き方指導や、就職に向けての履歴書作成に協力するなど、「書く」ことのサポートに力を注いでいます。

・しかし、本校は「国語」や「文章を書くこと」を苦手と感じている生徒が多く、受験の方法から考えると、「書く」ことや「考えを文章にまとめる」という練習は、継続的に行っていかなければ身につかないと感じています。

【7】そういった状況の中で、国語科としては、本校の進路指導とのつながりを考え、「書く力」をどのようにつけていくのかを課題と捉えており、日々実践している3つの取り組みについてご報告したいと思います。

【8】●コラム学習について

【9】

・開校当初、総合科学類から進学に必要な、小論文や志望理由書に対応する力をつけるために協力を依頼され、総合科学類の進路実現に向けた取り組みに、国語科全体として協力する形で始まりました。

・1年生の1学期は書くことに慣れ、原稿用紙の使い方を学ぶため、書き写しのワークシート、2学期から3年生の1学期までは、漢字・語句の意味を含めた要約と意見をまとめるワークシートを使用しています。☞資料①（ワークシート原本）をご覧ください。

・現在は、考査期間を除く平常期間に、週末課題という形で週1回程度実施しています。毎回、提出されたもの一枚一枚添削を行い、その上で授業の最初などに全体に説明して返却するなど、「コラム学習」の指導には非常に時間がかかっています。プリントの中には、やる気が見られないものや、字が汚くて読むのに時間がかかるものがあるほか、提出日を過ぎてしまって催促しなくてはなかなか提出しない生徒を指導する、といったこともあり、授業をやりくりして添削する教師側には大きな負担となっています。

☞資料②に実践例を挙げました。

このワークシートのポイントは、次の4点です。

・まず「時事問題を知り、知識を得る」ことが挙げられます。

新聞は図書室が購入している徳島新聞、朝日新聞、毎日新聞の中から、教師が1年間持ち回りで選んで作成しています。

・次に、社会で使われている言葉に触れながら漢字力・語彙力を向上させる機会になっていると考えます。

・また、筆者の主張をまとめることは、テーマ理解の練習になり、近年の課題文型小論文や現代文の記述問題の対策にもなります。

・最後に、筆者の主張をふまえて自分の意見を述べることは、小論文を書く練習になります。文字数は少ないですが、意見と根拠を書く、具体例を入れる、などを指導しています。

【10】添削をされていて気づくことは大きく3点です。1点目は原稿用紙の使い方がわかっていない、2点目は文章の書き方がわかってない、3点目は、筆者が最も言いたいことが読み取れない、という点です。詳しくはスライド【10】をご覧ください。

そのような中で、

コラム学習についての生徒の意識と効果を調べるため、（令和5年11～12月に）アンケートを実施しました。

アンケートの結果です。スライド番号【11】から【18】をご覧ください。

※アンケート項目の横の数字は人数を表しています。

【11】どの学年もかなり多くの生徒が前向きに取り組んでいます。

【12】特に3年生は進路を決定する時期を迎え、「書く」ことの必要性を感じている表れではないかと考えます。

【13】また、どの学年も「要約」を苦手としており、1・2年生では、付きたい力として、「要約力」「読解力」などが選択されている一方、3年生では、「要約力」「語彙力」「読解力」などが付いたと答える生徒が多く、自分の成長を感じていると推測されます。

それ以外にも「書くことに抵抗がなくなった」「時事問題に関心を持つようになった」「知識が広がった」等の回答も増え、コラム学習が実際に受験にどのように繋がっていったかを実感する声が聞こえたことから、ある程度の効果が得られたと考えています。

【19】「成果と課題」として

・まず、成果としては、アンケート結果より、要約する力・文章をまとめる力がついてきたことを生徒が実感していることが挙げられます。

・一方課題として、回数や実施（配付）日等、実施の方法は今のままでよいのか、ということがあります。次年度以降、総合科学類教員とも相談しながら改善・検討していきたいと考えています。

・また、国語科教員が少ない中、技術類でも進学希望者が増えてきていることへの対応をどうするか、進学課とも連携をしていきたいと考えています。

【20】●読書課題について

【21】(1)現状

◇ねらい

「読書課題」のねらいは進路に関係する本を読み、生徒に必要な専門分野の知識を増やすことです。

◇実施方法

資料③をご覧ください。進学コースである総合科学類・海洋科学類の生徒を対象に、各学期末に長期休業中の課題として資料③のような読書課題プリントを配布し、次の学期初めに提出させます。

◇アンケート実施

長年実施してきた読書課題ですが、有効な課題なのか、生徒はどう受けとめているのかを知るために、2・3年生を対象にアンケートを実施しました。

【22】

まず1年次から4回、読書課題に取り組んできた2年生へのアンケート結果です。

このグラフから読書課題が読書のきっかけになっているということがわかります。

【23】

その一方で、7割以上の生徒が「読書課題」を「苦痛」と感じていることもわかりました。
(まあまあ苦しい・非常に苦しい、各36%)

【24】

次に進路が決定した3年生に対して実施したアンケートでは「読書課題は役に立った」と80%以上の生徒から肯定的評価が得られました。

【25】

具体的にどのように役に立ったか尋ねると、「専門的な知識を得ることができた」や「語彙・表現・言い回しなど、言葉に関する興味・関心が深まった」という回答が多く集まりました。中には「入試に出題された」という生徒もおり、「読書課題」が進路に役立っていると3年生が実感していることがわかりました。

【26】

しかしその反面、2・3年生に「読書課題で苦勞すること」を尋ねた結果からは、(苦手ポイントが学年で少し違っているものの)「文章を書くこと」と「本を読むこと」両方に苦手意識があり、その両方が必要となる「読書課題」は、生徒にとって嫌な課題だという現状が見えてきます。事実、プリントを配布すると「またこれか～」といった声が毎回聞こえてきます。

【27】 (2) 改善の取り組み

以上のことを受け、読書課題の改善を試みました。1点目はプリントの様式の変更、2点目は読書を楽しむ工夫です。

【28】

◇改善点

改善①

*** 資料④(変更した配布プリント)**

資料④をご覧ください。「読書課題」の紙面の半面を「16分割のフレーム」にまとめる形式に変更しました。読みながら気づいたことを、1まとまりの内容ごとに1枠にメモするもので、何枠まで記入するかは自由です。後の半面は「印象に残ったことについての意見と根拠を中心に書こう」に変更しました。「読書課題」の目的は「専門的な知識」を身につけることなので文章量にこだわらなくてよいと考え、生徒からの「書く量を減らしてほしい」という要望にも適い、書く内容の自由度を上げることができると考えました。「16分割のフレーム」についての説明は、パワーポイントの**スライド番号47番**(資料⑤)をご覧ください。ここで更に詳しく説明することは今回の発表テーマから外れることになるため控えたいと思います。詳しくお知りになりたい方は本校までお問い合わせください。

【29】

◇結果

改善した読書課題をどう思ったか、アンケートをとった結果です。文章量を大きく減らした16分割のフレームに肯定的意見が多く集まると予想していましたが、意見が分かれませんでした。そこで次の学期の「読書課題」は、「従来の形式」「16分割のフレーム」を裏表印刷し、生徒が選べるようにしました。この変更で、生徒の書く文章の自由度がより向上し

たとえます。

【30】

また、「意見」と「根拠」を中心に書くことについての自己評価は「だいたいできた」と答えた生徒が半数、残りは「あまりできていない」「わからない」となりました。今後「意見」と「根拠」について、更に授業で意識して説明していかなければならないと考えます。

【31】改善②

「本を読む」ことへの苦痛感を取り払い、少しでも本を読むことへのモチベーションを上げるため「ビブリオトーク」を実施しました。これは「読書課題」プリントを手元に持って3分間本の紹介をし、1分間の質疑応答の後、チャンプ本を決めるという「ビブリオバトル」をベースにしたグループワークです。プリントを見ながら本の紹介ができるので、抵抗感は少ないと考えました。

【32】

◇結果

ビブリオトーク実施後のアンケート結果です。

- ・ビブリオトークについて、ほとんどの生徒が「面白かった」「まあまあ」と答えており、大半の生徒が楽しく活動できたことがわかります。
- ・また、クラスメートからその本の魅力や内容を伝えてもらうことで興味が湧き、「読んでみたい本が見つかった」と答えた生徒が7割を超えました。このことから、ビブリオトークは読書のモチベーションが上がらない生徒に対して有効であると考えます。
- ・さらに、資料⑥の「ふりかえりシート」にもありますが、本の紹介を3分間行うことの難しさを感じた生徒も多く、今度はスピーチの仕方をもっと工夫したいという表現することへの前向きな意見も見られました。

【33】3まとめ

- ・長年取り組んできた「読書課題」ですが、今回調べてみて、教師側だけでなく、生徒も進路に役立つと捉えていることがわかりました。更に「ビブリオトーク」を行うことで「読書課題」は単に生徒の知識を記録するためだけのものではなく、生徒同士で知識の共有を図ることができるとともに、更に専門知識を得ようとする「読書」へのモチベーションを高めることにもつながる、と考えました。生徒が取り組むべき「読書活動」に、少しでも楽しさを加えることができたと考えます。
- ・ただ、週に2回という限られた「現代の国語」・「論理国語」の授業の中で、このような活動を行う機会を設けることはなかなか難しく、今後の課題としたいと思います。

【34】 ●小論文模試の利用

【35】小論文模試を活用した意見文の練習と評価

- ・1・2学年全クラスを対象として3学期に小論文模試を実施しています。学研の小論文教材を使用し、1年生は「課題作文」、2年生は「ステップ小論文（ステップ0）」を使用しています。これまでも、小論文模試の事前学習や講演の受講はしていましたが、国語科としての系統だった指導から外れている部分もありました。し

かし新課程となり、言語活動が単元化されるなど、表現力の育成に重点が置かれるようになりました。このことから、「書く指導」のなかで外部教材を活用できるのではないかと考えました。

【36】課題点

- ・書く指導に関しては、提出された作文等の成果物を確認することが大きな負担になります。その上、評価のあり方も課題だと感じました。
- ・評価としては自己評価、相互評価、教員によるものが考えられますが、評価基準を定めたとしても、評価者によって評価の揺れが生じるのではないかと考えます。

【37】取組

- ・2学期末に付属教材を活用して授業内で事前指導を実施します。これまでの学習を踏まえた上で、特に原稿用紙の使い方や構成の考え方を復習しておきます。
- ・2年生は就職・進学別に進路に合わせた小論文講演会を実施します。空いた時間は進路別の集会を行い、進路への意識付けも行います。

【38】

- ・模試は3学期最初のHR活動の時間に全クラスで統一実施します。
- ・A～Eの5段階評価となるため、各項目10点満点で数値データ化し、まとめました。

【39】結果の分析

- ・集計結果の分析です。
- ・1年生の全体の項目ごとの表です。
特徴として、
 - ・課題理解、表現/表記は評価が高くなっています。また、意見の明確さも良い結果となっていると思います。これは、国語科で身につけた力を実習レポートや口頭試問などで実践的に活用していることも関係しているのではないかと考えています。
 - ・一方で内容の充実、展開・構成に課題があることが分かります。

【40】2年生全体

- ・右端の意欲に関しては良い評価。文字の丁寧さも評価が高いですが、国語科での提出物・考査における書字指導の成果だと考えています。また、レポートの成果もあると思います。
- ・1年生と同じで、課題の理解が高い。一方で内容・構成に課題があることが分かります。

【41】2年生クラス別

- ・全体としての結果は先ほどの通りだが、クラス別に一覧にするとクラス毎に特徴があり、それぞれの得意と課題点が見えてきます。1年生でも同じように分析をすることができます。
- ・この2年生のグラフでは、Kに関しては課題の理解、意見の明確さが特に高くなっています。このクラスは、本校独自のサイテックハイノートを、実習等、専門科目だけでなく授業、ホームルーム活動でも活用しており、その関連性についても考えてみたいと思います。

(16分割フレーム法もその一つ)

【42】サイテックハイノート

【43】○数値換算することでデータとして分析できました。

○学年統一の評価基準・採点基準での評価が出ることで、学年全体、また、クラスごとの特徴が確認できました。

○評価にかかる時間を短縮（業務改善）できました。

- ・分析結果をどのように活用していくかということが課題として挙げられます。
- ・小論文指導については、国語科教員の負担が大きい傾向にあります。本校の特性を考え、専門教科などと連携体制構築を考えていきたいです。

【44】【全体のまとめ】

・それぞれのアンケート結果から、「書く力」の必要性を理解し、自分事として前向きに取り組んでいる生徒が多いことが分かります。また、多くの生徒が学習の効果を実感していることも見て取れます。

・この結果に、改めて手応えを感じる一方で、一部の生徒は、他教科からの課題や部活動などで忙しく負担を感じており、提出が遅れ、十分な取り組みになっていない様子も見られます。先にも述べたように、この現状については、対策・改善が必要であると考えています。

【45】

・しかし、本校の進路決定方法を考えると、「書く力」を付けることは必須の課題です。更に、多様な社会を生き抜くためには、論理的思考力、情報や気持ちを的確に伝え、理解できるコミュニケーション能力が必要とされており、これらの力は「書く力」を付けることで培われると考えます。今後は、生徒のモチベーションを上げる発展的な学習を取り入れたり、楽しみながら力を付けられる活動の工夫を考えたりして、よりよい学習活動にしていきたいと思っています。そのために、外部教材を活用した指導の改善と、より効果的な活用の模索、他教科との連携強化等、本校独自の取り組みを通して総合的に力を伸ばすことが大切だと考えています。

・今回改めて、生徒ができるだけ多く「文章を書く」機会を持つことが、文章上達につながると感じました。もし、効果的なよい方法がありましたら、是非ともご助言いただきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

【46】

・ご清聴ありがとうございました。